

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)		廃棄物政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 3 6 (直通)		
開催日時		令和 7 年 5 月 3 0 日 (金) 1 0 時 0 0 分 ~ 1 2 時 0 0 分		
開催場所		総合学習センター 2 階 セミナールーム		
出席者	委 員	1 7 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	1 6 人 (環境部長、廃棄物政策課長、他 1 4 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	2 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 開会 2 報告 (1) プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律への対応について (2) 新設した「ごみ減量 P R 室」について (3) 環境配慮コンクリートに関する民間企業との共同研究について 3 議題 (1) 令和 6 年度審議会の結果について (2) ごみ減量に関する市民アンケートについて 4 その他 (1) 委員の改選について 5 閉会		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開会

定足数を確認の上、開会した。

2 報告

(1) プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律への対応について事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(浅賀委員) 製品プラスチックはペットボトルや容器包装プラスチックとは別に出すということか。収集日は同じなのか、袋は分けるのか。

(事務局) 製品プラスチックは容器包装プラスチックと同じ袋で一緒に出してもらおう。現在はペットボトルも容器包装プラスチックと同じ日に分けて出してもらっているが、ペットボトルについては別の日を設けるような形を想定している。

(浅賀委員) 市民への説明はいつ頃からか。

(事務局) 収集ルートの関係もあるため説明時期はまだ決まっていない。しっかり準備を整えて説明できるようにしていきたい。

(浅賀委員) 市から案内されるまでは現状のままでペットボトルも容器包装プラスチックと同じ日ということでよいのか。

(事務局) そのとおりである。

(原委員) 令和8年10月開始であることを誤解されないようにしなければならない。実施前に誤って新しい方式で出されてしまうと中間処理業者に負担がかかってしまう。

(須藤委員) 大きいものでレジャーシート、ブルーシート、衣装ケースなどはカットして出すという理解でよいのか。

(事務局) 50センチメートル未満であれば問題ない。

(原委員) シートなどは、折り畳んで50センチメートル未満の形状では途中で広がり中間処理に影響が生じる可能性があるため、カットが必要である。

(須藤委員) カットが必要であることについてよく理解できた。

(竹田会長) 製品プラスチックと容器包装プラスチックを一緒に出せない現状について、市民の皆さんはいろいろと思っているようだ。この話を私が地域で受けたときは、将来は一緒に出せるようになるようだと伝えている。しっかりと周知に努めていただきたいと思う。

(三膳委員) 食品などに貼られているシールを一生懸命剥がそうとするがなかなか剥がれない。別々にしなければとは思っているが剥がせない場合は一緒でも許されるのか。製造者や販売者の方でシートやシールをプラ素材にしてもらえると助かる。

(事務局) 製品シール等については、できる限り外していただくということをお願いしてる。外せない場合はやむを得ないのでそのまま出して大丈夫である。

(原委員) 基本的にシールは容器包装プラスチックに該当しないが、日本容器包装リサイクル協会は剥がさないで出してもよいと言っているので無理に剥がさなくても出せると思う。

(松平委員) ビデオテープのように中に紐状のものが入っているとうまく処理できないなど、出せない品目を明確に掲載していただいた方が良い。

(2) 新設した「ごみ減量PR室」について
事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(松平委員) ジモティースポットを早速利用し不要となった品を持込んだ。その後にホームページで価格を見たら、他のリサイクルショップより高かった。リサイクルショップは買取販売なので高額でも理解できるが、ジモティーは無償引取りなのでもう少し価格を下げてよいのではないかと感じた。

(事務局) ジモティーに伝えさせていただく。ジモティーが他の店舗と違う点は、売れないとどんどん値段を下げていくようである。最後には0円で売ることもあると聞いている。

(中島委員) 麻溝地区は現在の最終処分場があり次の最終処分場候補地にもなっているため、ごみへの関心が非常に高い。一方で他の地区の方と話をするとなかなか理解していただけない点が課題である。この課題を何とかして欲しいとずっと話をしてきたが、市として周知に力を入れるためにごみ減量PR室ができたのではないかと思います。

ジモティーやPR動画の話が出たが、それ以外にも各地区を回ってしっかりと啓発活動をしていただきたいがどのように考えているか。

(事務局) 市民にごみの現状を直接説明することは非常に大切だと考えている。現在は、実際にごみを回収する環境整備員が小学校4年生を対象に市内の小学校を訪問して説明をしている。今後は大人にも伝えられるような出前講座にも力を入れていこうと考えている。

(竹田会長) リサイクルショップは買取作業に時間がかかるが、ジモティーは買取をしないので持込んだ人はすぐに引取ってもらえる特徴がある。意外なものにも値段が付くのでごみを減らすという点で重要なことだと感じている。ぜひ多くの人が行ってみるとよい。

(浅賀委員) ジモティースポットをもっと増やす考えはないのか。

(事務局) 市内1箇所だけでなく、例えば区毎に設置してもらえれば減量効果がさらに高まると考えている。多くの方が利用し繁盛すれば店舗を増やしてもらえる可能性もあるかもしれないので、ジモティーにはぜひ伝えていきたい。

(3) 環境配慮コンクリートに関する民間企業との共同研究について
事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(竹田会長) 最終処分場への埋立てを減らすための様々な取組みの一つだと感じた。

(松平委員) 素晴らしい実験結果だと思う。高炉スラグと溶融スラグと新幹線アルミニウムということだが製造時に焼成をかけるのか。焼却灰を溶融スラグの代替にできないのか。

東京たま広域資源循環組合では以前に埋立てた焼却灰を掘り起こしてそれをセメントにしている。相模原市も麻溝台の最終処分場を掘り起こしてそれを溶融することができれば、未来永劫最終処分場が使えると思うがそのような検討はしているのか。

(事務局) このコンクリートは焼成をせず、一切熱をかけないで混ぜることで製造できる画期的なコンクリートである。

それから焼却灰を溶融スラグの代替として利用することについては、一般的にコンクリート材料として焼却灰は使えるが、このコンクリートにおける溶融スラグの役割はあくまで砂の代わりに使うものである。したがって粒の大きさなどが求められるので、ここで使えるのは溶融スラグになる。

最後に焼却灰等の掘り起こしについては、このコンクリートには利用できないが、掘り起こしたものを溶融スラグにするという技術は確立されていて実行している市町村もある。本市では掘り起こした量を工場で処理できるだけの能力的な余裕はない。北清掃工場と南清掃工場の2施設あり、北清掃工場から出る焼却灰の全量を南清掃工場の炉で処理することで溶融スラグを生成する取組みをしている。

(山田委員) この環境配慮コンクリートは、道路に使った時に従来のコンクリート

と比較して雨水の吸収はどのように違うのか。また、夏季の熱への耐久度は従来品と比べてどの程度違うのか。

(事務局) これは新しいコンクリートであるためまだ評価できていない。しかし、強度や流れやすさとしては従来のコンクリートと同等の性能が出ている。雨水吸収や耐候性については試験施工をしてから長期暴露試験を行い評価していかなければならない。

(中島委員) かなりの量の溶融スラグが最終処分場で埋められていることが課題になっていて、何とか全量を使えないか検討して欲しいと意見を出し続けてきた。今回このような話が出てきて非常に期待が持てると思う。強度的には問題ないということなのでぜひ溶融スラグを最終処分場に埋めない形を目指していただきたい。

(畑野委員) セメント製品では再生砕石などを二次利用することがあると思うが、そうした時の環境配慮について伺いたい。

(事務局) ご指摘のようにコンクリートやアスファルトは二次利用される。市では溶融スラグの JIS 認証を取得している。JIS 規格では二次利用を含めて有害物質を溶出しない基準がある。二次利用や三次利用をしたとしても溶融スラグは環境影響を配慮した資材といえる。

(浅賀委員) 実用化の見通しはいつなのか。

(事務局) 新しいコンクリートであるため、長期間使用してもひび割れが起きないか、先ほど意見をいただいた雨水のことなどを評価しなければならない。少なくとも数年間は暴露試験を行ったうえで実用化を目指していきたい。

3 議題

(1) 令和6年度審議会の結果について
事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(竹田会長) 諮問に対して答申することが審議会としての一般的なスタイルであると思うが、令和6年度の有料化と戸別収集の議論は、諮問されたわけではなくて実際にこれから想定されることについて検討を行ったものである。これまでの審議会での議論をもって制度導入の是非を決定するものではないという点をご理解いただきたい。

ごみの重量は年々減っているが、集積場所によってはごみがネットに収まりきらないところがある。住宅の数が増えていることが原因かもしれないが、軽いごみが増えて体積は大きくなっているように感じる。

(中島委員) 2 ページのごみが減っていることを示す棒グラフについて、視覚的には急激に減っていると感じるが、実際は少しずつしか減っていない。これは一番下の目盛が 400 であるためである。400 から 500 までの間を拡大して表示しているからであり、この目盛りは省略をしない方がよい。

5 ページについて、ごみの有料化の課題として焼却量が減ると CO2 排出量も減ることを入れていただきたい。CO2 排出量削減は大切な取り組みの柱でもある。

7 ページの戸別収集の試算で経費がかなり増える記載がある。これは市の調査結果を書いているのだと思うが、審議会の中では、多摩市の例ではあまり費用が増えなかったという意見が出されており、もう少し多摩地域の状況を調べて報告してほしいという意見もあったはずである。その部分をぜひ入れていただきたい。

(松平委員) 7 ページの戸別収集の課題で 14.5 億円の経費増と言い切っているが、ここは経費が増える見込みと書くべきだと思う。14.5 億もかけて戸別収集を行うのであれば必要ないという市民感情になるし、市が前向きではないという誤解与える可能性がある。

収集作業の時間についても今後の精査が必要であり今の時点では、「時間がかかる」という表現が適当ではないか。収集作業にかかる時間は、清掃工場と集積場所の往復回数を減らす見直しがあれば制度導入の余地があると思う。例えば午前 2 回と午後 3 回、清掃工場と往復しているところを午前 1 回と午後 2 回に減らせれば、往復と計量の時間で 2 時間半程度の短縮ができるのではないかと思う。自治会の加入率が下がっていてごみ集積場所の課題があるので、戸別収集は導入するべきではないかという意見もあったので、そのあたりも踏まえて表現を見直してほしい。

(三膳委員) 2 ページに政令市の比較グラフがあるが大阪市、京都市、広島市のように排出量が少ない都市のことを調べると参考にできると思う。

(事務局) 7 ページの数値については、審議会でも説明した令和 5 年度の調査結果を掲載したが、ご意見のとおり誤解を与える可能性もあるため表現を検討していきたい。また、今後はさらに緻密なシミュレーションも必要と考えている。

他都市との違いの把握は必要だと考えている。先週、横浜市に伺い情報交換を行ってきた。引き続き調査研究し相模原市のごみを少しでも減らせるように他都市の取り組みも参考にしていきたい。

(浅賀委員) 消費者である市民だけでなく、生産者や販売者も一緒になって懇談す

るような場が必要だと思う。

(大河内委員) 市の現状のところに CO2 削減の必要性が記載されていない。CO2 削減は重要であり廃棄物焼却による排出割合が大きいことをグラフで分かりやすく示した方がよい。

(事務局) CO2 削減についてはごみ減量に係る根本の話になると思う。ぜひ入れるように一度検討したい。

会長から、ごみの重さは減っているが体積は増えているのではないかという話があった。長年収集をしているベテランの環境整備員の話では、清掃工場へ戻ってきて計量すると自分の想定よりも軽いことが多いと言っていた。ごみ質が変わってきているのではないかと現場も感じている。

(2) ごみ減量に関する市民アンケートについて
事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(栗岡委員) 問4の6番、「白色トレイなど店頭回収に出している」というところはペットボトルも加えて「白色トレイやペットボトルなど、店頭回収に出している」とした方がよい。店頭回収に出す方が市に出すよりもエコな行動であることを市民に理解してもらえる。

OECD(経済協力開発機構)でもペットボトルなどは拡大生産者責任として生産者の負担で回収するべきと言っている。税金でペットボトルを回収することはペットボトル需要を奨励する側面も持つので、ぜひ回収回数を現在の週4回を週2回に減らすとか、日野市のように月1回に減らすことなどに取組む必要がある。

(松平委員) 問5の回答の2番で、「自治会やこども会などによる資源の集団回収を広める」とあるが、自治会に加入していないマンションが増えているので「自治会、管理組合やこども会などによる集団資源回収を広める」とした方が、マンションでもできることが伝わるのではないか。アンケートで土曜収集のことを聞く必要はないのではないか。ごみ収集に関わる人は祝日は休みではないし、ゴールデンウィークも出勤する。土曜日に休めなければ生涯の仕事として就きたい人は少ないのではないか。週5日制でなければ後継者は確保できない。アンケートで聞くのではなく、速やかに週5日制に移行してほしい。

資源の収集頻度を聞く設問があった方がよい。相模原市は新聞、ダンボール、雑誌、雑紙、古布、びん、かん等を毎週収集しているが、量はそれほど出ていない。資源の収集頻度を見直すことで週5日収集に繋げ

てほしい。

(林田委員) 調査対象が高校 3 年以上であり、世帯としての考えが薄い若者世代からどのような答えを引き出すのかを考えたときに、リフューズが一番の関心事ではないか。例えば店でスプーンやフォークをもらうのか、飲み物を頼んだときにガムシロップをもらうのか、そのような会話の中で、要りませんと積極的に伝えることによる貢献もひとつの重要な要素かと思う。リフューズに関する質問を増やせば若者もアンケートに参加する意思が高まると思う。

(中島委員) アンケートの趣旨を再確認させてほしい。有料化については昨年度 1 年間かけてメリットとデメリットについて議論してきた。その論点を整理できたので、いよいよ本格的に検討していくと思うが、それを始めるというタイミングで有料化の賛成反対を聞くことを心配する意見がある。単に賛成反対を聞くと反対が多くなるのではないか。啓発をしっかりと行い、回答者が必要性を理解したうえで賛成反対を問うべきだと思う。現段階でのアンケート結果を最終的な政策判断の材料にされると非常に問題だと思うがいかがか。

相模原市のごみ処理をとりまく状況の資料だが、はっきり言って弱すぎると思う。この内容ではこれからどうするべきかよく伝わらない。特に最終処分場についてはもう少し丁寧に書いてほしいし、CO2 の削減ももっと丁寧に記載するべきだと感じた。タイトルは取り巻く状況ではなくて、「相模原市のごみ処理の現状と課題」が適当ではないか。各地区への説明にも使うのかもしれないので内容を丁寧に、もっと伝わるように作ってほしい。

(原 委 員) 今は収集する人の高齢化が進んでいて若い人が入ってこない。

私の会社ではビンを 6 日間回収しているが、水曜日にまとめて処理できるくらいに量が少ない。プラ新法への対応で収集を変更するときには、ぜひ資源の収集頻度などについて知恵を絞って見直してもらいたい。

多摩市の戸別収集導入の際に費用があまり増えなかったという話があったが、まず多摩市と相模原市では戸建住宅と集合住宅の割合が大きく違う。相模原市の場合は戸建住宅が多く、多摩市は集合住宅が多い。また、同業の仲間から聞くとその時代は競争入札で仕事の取り合いがあり、無理をしてまで安い価格で仕事を取っていたようだ。しかし今後は競争入札があっても、ドライバーが確保できないから無理をしてまで仕事を取らないようになっていくと思う。私の感覚では戸別収集を新たに始めるには時代が遅いと感じる。もっと人材を確保できた頃に開始していれ

ば何とか回せたのかもしれないが、今は難しいように思う。

(大河内委員) 調査対象者を無差別に抽出するということだが、回答率が低くなる可能性も考えられる。高齢者層の回答率は高いと思うが特に若年層の回答率は厳しい状況になるかもしれない。今回のアンケートは若い世代の方々の意見もしっかり聞きたいのだと理解しているので、QRコードで回答できれば回収しやすくなると思う。場合によっては、リマインドを掛けるなり回答率を上げる工夫を検討いただきたい。

有料化の設問について賛成と反対の人のための設問はあるが、どちらとも言えない人のための設問がない。判断できない理由を問う設問がひとつあってもよいのではないか。どの程度の費用負担増になるのかかわからない、どのような情報があれば判断できるのかなど聞くことも大切ではないか。

相模原市はふれあい収集の取組みを開始するので、戸別収集の設問の場所等にふれあい収集のことを記載した方がよいという印象を受けた。

(浅賀委員) アンケート調査は広く市民意見を聞くひとつの方法であるし、他には公民館の利用団体に聞く方法などもある。相模原市のごみ行政が何を目指すかは大きな問題なので拙速にならないようにしてほしい。アンケート自体はよいことだと思う。

(林田委員) 私は学校という立場から参加しているが教育の視点で考えると、最も気になった数字は資源化できるものがまだ 31%もごみに回っているという点である。そのために何ができるのか、毎日の生活で何を変えていかなければならないかについて、アンケートを通じて意識を広める効果があると思う。説明にあったように意識啓発という意味でのアンケートの取り方も可能ではないか。

(事務局) アンケートの目的について改めて申し上げると、ごみ減量というテーマに関して市民がどのような意識を持っているのか把握したいということがある。他には、意見にも出たが市民の皆さんにごみについて興味関心を持ってもらうことも大切な目的である。アンケートには市の状況を伝える資料を入れて周知したいと考えている。有料化や戸別収集に関しては、昨年度から審議会において議論していることも伝えたいし、市民一人一人がごみのことを考えるきっかけとしていきたい。

この結果によって、有料化についての賛成と反対の数によって施策を決めるということではなくて、今市民の皆さんが何を考えていて、市としては何をしていかなければいけないのか、そのようなことを考えるための材料としていきたい。

土曜日収集の設問については、アンケートのごみの減量に関するテーマとやや異なる性質に感じるかもしれないが、ごみに関わる内容でありすべての市民に関わるものと考えている。また、この設問は市としてこれまで聞いたことがない分野であるため、ぜひこの機会に把握したく設問に入れさせていただいた。

回答率は、このようなアンケートでは多ければ50%、40%ならまずまずと言われているので、そのようなイメージを持っている。スマートフォンで読み取ってできるようにQRコードを掲載し、一定期間を過ぎたらお礼と合わせて回答を促すお知らせを出すことで回答率を向上させるように努めていく。

広く市民に意見を聞くことが非常に大切であるという意見もいただいているので、ごみ減量PR室の取組みに加えて、市の現状と課題については地域に直接伺い説明していく場面を今年度中につくっていききたい。例えば22地区あるので地区毎に説明させていただくような形で進めていきたい。

設問に関するご意見は、市が気付かなかった部分、それから設問の選択項目についていただけたので一旦持ち帰り、効果的に活かしていけるように考えさせていただく。

(事務局) 資源の回収頻度については、来年の新プラ法への対応に向けて広く説明する機会があるので、大きな機会だと捉えて可能な限り良い方向に変えていきたい。

(須藤委員) 生ごみは家庭ごみのおよそ三分の一程度だと思うが、それを減らすことでごみの減量に繋がっていくのではないかな。生ごみ処理容器の助成を待っている方もいると思う。今年度はいつ頃から助成が開始されるのか。

(事務局) 生ごみ処理容器の助成については、手続き方法に一部変更があるため今年は少しお待ちいただいている。ようやく準備が整い始めているので間もなくご案内できる予定である。

(竹田会長) 生ごみ処理容器は非常に要望が多い。ごみの減量に一生懸命協力してくれる人たちを大事にしていかなければならない。

(浅賀委員) 南清掃工場での事故について、このような事故は初めてなのか。全国的にはいかがか。

(事務局) 施設の維持管理中の事故としては相模原市では初めてである。大きな事故であり、もう二度と起こさないという決意の元で現場では安全対策を進めている。職員と委託業者と力を合わせて、精一杯取り組んでいる。

(浅賀委員) このような事故は全国的にはいかがか。

(事務局) ごみ焼却施設は不均質なゴミを扱うため、制御が難しく詰まりなどが発生しやすい。全国的には労災は起きやすい施設ではあるが二度とそのようなことがないように取組んでいきたい。

4 その他

(1) 委員の改選について

事務局から説明を行った。

【質疑事項】

特になし

5 閉会

相模原市廃棄物減量等推進審議会委員出欠席名簿

(五十音順・敬称略)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	浅賀 きみ江	さがみはら消費者の会		出席
2	今井 宗太	相模原地域連合		出席
3	内山 雅之	相模原市農業協同組合		出席
4	近江 良一	相模原商工会議所		出席
5	大久保 匡	相模原廃棄物対策協議会		出席
6	大河内 由美子	麻布大学		出席
7	加賀谷 育子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		欠席
8	栗岡 理子	公募		出席
9	須藤 みね子	さがみはら4R連絡会		出席
10	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会	会 長	出席
11	中島 勝平	相模原市廃棄物減量等代表推進員		出席
12	畑野 栄久	津久井地域不法投棄防止協議会		出席
13	林田 裕之	神奈川県立学校長会議 相模原地区会議		出席
14	原 正弘	神奈川県県央地区廃棄物処理業協議会		出席
15	福田 豊	相模原市子ども会育成連絡協議会		出席
16	藤倉 まなみ	桜美林大学	職務代理者	欠席
17	松平 和也	公募		出席
18	三膳 節勝	相模原市老人クラブ連合会		出席
19	山田 とし子	相模女子大学		出席